

わたしが
わたしで
いられるところ

第55回 日本てんかん学会学術集会 アート企画

Art Project, The 55th Annual Congress of the Japan Epilepsy Society

2022年 9月19日(月)祝～22日(木)
10:00～17:30 (最終日は～12:00)

仙台国際センター
会議棟2階 展示・レセプションホール 桜
〒980-0856 宮城県仙台市青葉区青葉山
入場無料

共催 東北大学病院・第55回日本てんかん学会学術集会
出展 一般社団法人アート・インクルージョン
社会福祉法人わらしべ舎
特定非営利活動法人 多夢多夢舎中山工房
企画・制作 一般社団法人まちとアート研究所

詳しくは特設サイトへ



特設サイト



特設サイト



2021年3月アート・インクルージョンによるせんだいメディアテークでの「展示」

アート企画「わたしがわたしでいられるところ」～わたしたちの日常制作をお見せします。

多様性やインクルーシブ社会の重要性が強く認識されるようになり、それが世界の「トレンド」にすなりつつあるように見受けられる昨今、ではいったい何が多様性やインクルーシブ社会なのかと言えば、それは「誰もが自分らしくいられる社会」ということではないでしょうか。

アートによるインクルーシブ社会へ向けた取り組みは、各地で積極的に行われるようになりました。それは端的に言えば「毎日起こる思いもよらない変なこと」と「笑うしかないその事態を楽しみながらみんなでどうにか乗り越えていく」という姿勢をどうにか共有しようとするものであり、例えば障がい者が描いた絵を展示するという従来のスタイルではとうていとらえきれない豊かさや現前性をもった創造活動です。

そうした活動を共有するための手法として、これまでワークショップやアート・プロジェクトという取り組みが行われてきました。アーティストが地域に入り、地域住民と何かを起こすというものです。

そうした中、仙台市を拠点に活動する一般社団法人アート・インクルージョンは、2021年より、福祉サービス事業所の日常そのものを公共空間に持ち込むという取り組みを始めています。2021年3月には5日間、せんだいメディアテーク1階オープンスクエアを借り切って、メンバーに日々のふるまいをそのまま行なってもらいました。また、現在は毎月1回、一番町アーケードで同様の取り組みを行なっています。

今回、伝統ある日本てんかん学会の先駆的なアート企画として、アート・インクルージョンに加え、仙台市内でアート活動を展開するふたつの事業所、社会福祉法人わらしべ舎と特定非営利活動法人多夢多夢舎中山工房にも同様に仙台国際交流センターの会場に日常を持ち込んでもらい、単なる展示物としてではなく、今そこで起こりつつある「生もの」として可視化、体験できる場を生成していきます。

アート企画ディレクター 門脇 篤

(現代アーティスト、一般社団法人まちとアート研究所代表理事)

出展者紹介

一般社団法人アート・インクルージョン

年齢や性別、国籍、障害のあるなし、アートのスキルや興味のあるなしなどあらゆるちがいをこえてアートを通して全ての人を優しく包み込む社会を実現することを目指し、2010年に活動を開始。現在、仙台市中心部アーケードにある「アート・インクルージョン・ファクトリー」では約40名の表現者が日々制作を行っている。



社会福祉法人わらしべ舎

わらしべ舎羽黒台工房では【それぞれの個性 = ユニークをアートに昇華する ユニークアート】というコンセプトの元、創作活動、商品開発、農業作業、レクリエーションなど幅広く活動を行っている。2021年仙台市羽黒台に開所し、アーティストとして現在27名が在籍している。



特定非営利活動法人多夢多夢舎中山工房

障がいがあるメンバーが通う、福祉施設。メンバーが自由に「まる」(dot)を描くことから始まったデザインブランド [tam tam dot] は、フライヤーやテキスタイルのデザインを手がけるほか、全国のセレクトショップにグッズを展開中。住宅街の中にある建物で、毎日マイペースに過ごしている。

